

日本の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）2 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

三宅島 [やや活発な状況]

17 日にごく小規模な噴火が発生した。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

6 日、18 日及び 28 日に爆発的噴火が各 1 回観測された。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

6～9 日及び 23 日に小規模な爆発的噴火が多発し、6～9 日に 187 回、23 日には 41 回観測された。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山】

雌阿寒岳 [やや活発な状況]

18～19 日に火山性地震が多発し、振幅の小さな火山性微動も 18～20 日に観測された。

十勝岳 [やや活発な状況]

62 - 2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。3 日及び 14 日に火山性微動が観測された。

樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。

浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

上旬まで火山性地震の多い状態が続き、火山ガスの放出量もやや多く、微弱な火映も観測された。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

23 日に変色水が確認された。

霧島山（新燃岳）[やや活発な状況（レベル 2）]

2 月 1 日に静穏な状況（レベル 1）から引き上げ

2 月 1 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測された。火山活動はやや活発な状態になっていると判断し、同日レベルを 1 から 2 に引き上げた。

霧島山（御鉢）[やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。15 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測された。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震のやや多い状態が続いている。

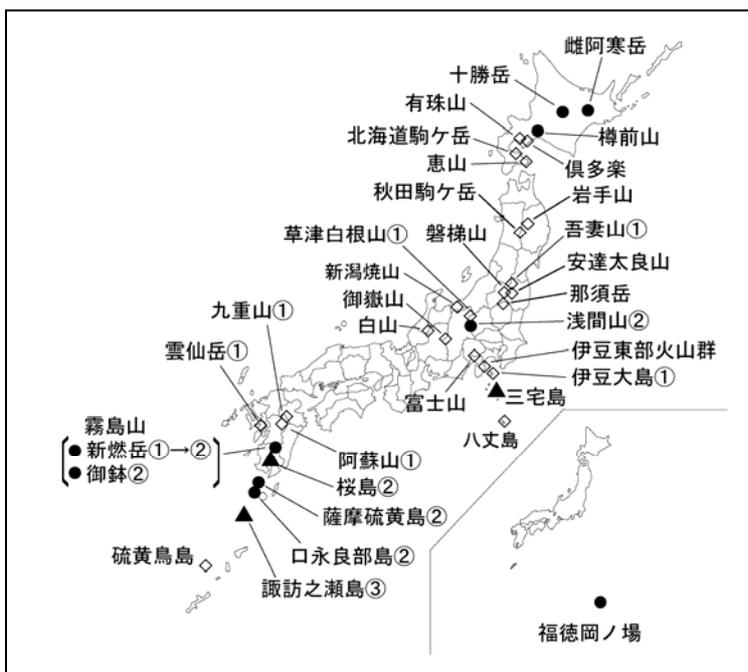
【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

21～25 日に地震が一時的にやや増加した。

伊豆大島 [静穏な状況（レベル 1）]

4～5 日に地震が一時的にやや増加した。



末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況
- 第 103 回火山噴火予知連絡会コメント

注 1 本資料で示すレベルは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルである。

注 2 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
- : その他記事を掲載した火山等の丸付き数字：火山活動度レベル

図 1 今回記事を掲載した火山

各火山の活動解説

雌阿寒岳 【やや活発な状況】

18～19 日に火山性地震が多発し、振幅の小さな火山性微動も観測された。

18 日 00 時頃から振幅の小さな火山性地震が増加し、18 日 516 回、19 日 351 回と多発した。1 日あたりの地震回数としては 1973 年に観測を開始して以来最多であった（これまでの最多は 1995 年 11 月 1 日の 300 回）。震源はポンマチネシリ火口直下の深さ 2～3 km と推定される。地震活動の活発化に伴い、振幅の小さな火山性微動が 18～20 日に 5 回観測された（火山性微動が観測されたのは 2003 年 1 月以来）。地震多発の前後で、噴煙の状況や地殻変動には特段の変化はなかった。地震回数はその後減少したが、17 日以前に比べやや多い状態が続いた（図 2）。

19 日に北海道の協力を得て行った上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口や中マチネシリ火口の噴煙の状況及び火口内の温度分布に特段の変化はなく、火口周辺に新たな噴出物は認められなかった。

期間中、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に特段の変化はなく、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で経過した。

前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

3 日及び 14 日に火山性微動が各 1 回観測され、3 日は振幅のやや大きなものであった（継続時間は約 1 分間）。微動の発生源は 62-2 火口周辺と推定される。微動の発生前後で火山性地震の発生状況に特段の変化はなかった。監視カメラ（62-2 火口の北北西約 6 km に設置）による観測では、微動発生時の噴煙や火口周辺の状況は天候不良のため不明であったが、天候回復後の 20 日の観測では火口付近に降灰は認められなかった。

火山性地震は少ない状態で経過し、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

樽前山 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特段の変化がみられていないことから、これらの火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況には特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。傾斜計及び GPS による地殻変動観測では、火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

倶多楽 【静穏な状況】

火山性地震及び火山性微動は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

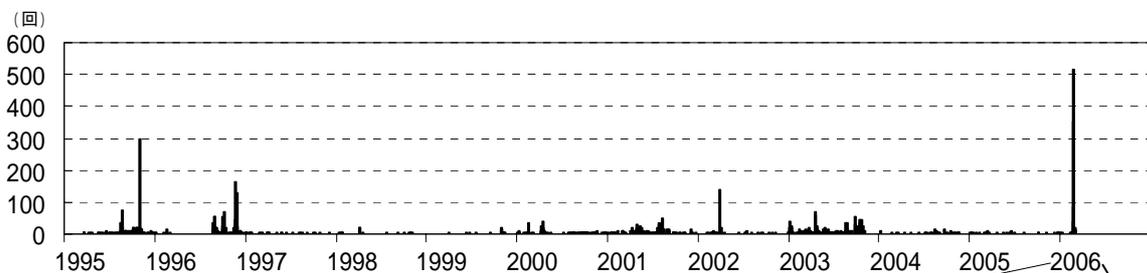
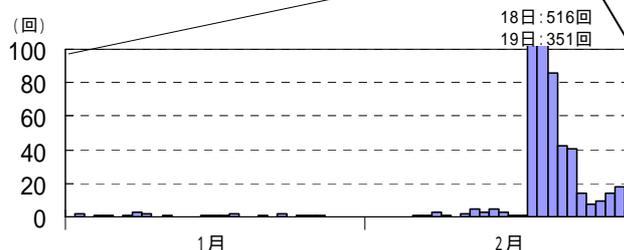


図 2 雌阿寒岳
火山性地震の日別発生回数

上：1995 年 1 月～2006 年 2 月
右：2006 年 1～2 月



有珠山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

北海道駒ヶ岳 [静穏な状況]

GPS による地殻変動観測ではわずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

恵山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

岩手山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

秋田駒ヶ岳 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

吾妻山 [静穏な状況 (レベル 1)]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

安達太良山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

磐梯山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

那須岳 [静穏な状況]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

草津白根山 [静穏な状況 (レベル 1)]

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

浅間山 [やや活発な状況 (レベル 2)]

1 月 30 日 (前期間) から 2 月上旬にかけて火山性地震の多い状態が続き、火山ガス (二酸化硫黄) の放出量もやや多く、微弱な火映も観測された。

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上 200m で推移した (最高は 300m)。5 日及び 6 日の夜間には山麓の高感度カメラ¹⁾ で微弱な火映が観測された (図 3)。

10 日に長野県の協力を得て東京大学と共同で行った上空からの観測では、火口底の地形に大きな変化はなく、火口周辺への新たな噴出物も認められなかった。赤外熱映像装置²⁾ による観測では、前回の観測 (2005 年 10 月 20 日) に比べて山頂火口内の高温部分が縮小しており、最高温度も約 300 (前回約 460) とやや低下していたが、火口内は依然として高温状態であった。

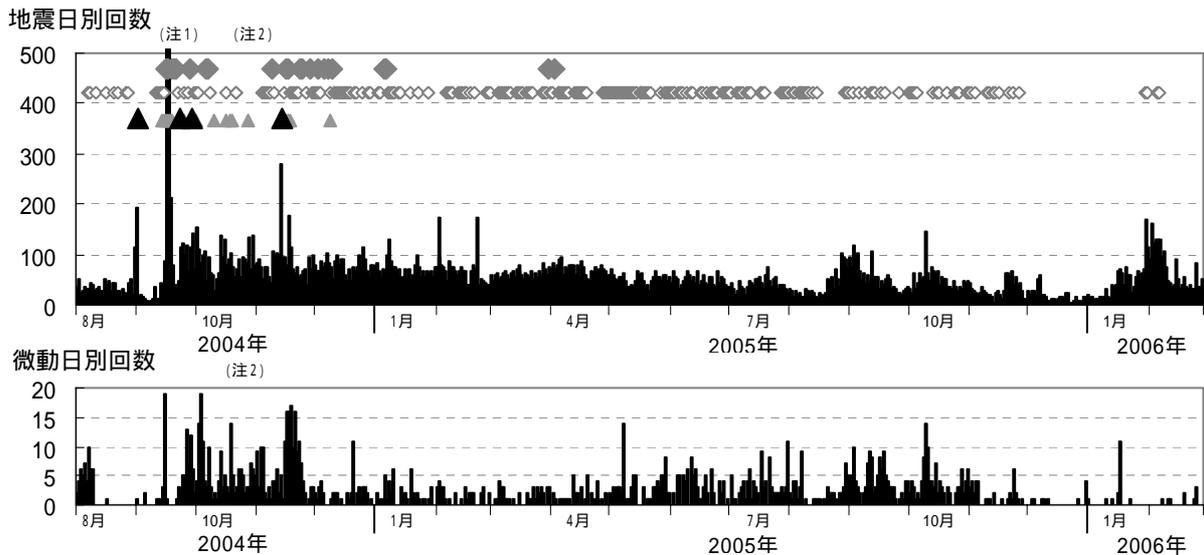
10 日及び 22 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 700 ~ 1,700 トン (10 日)、400 ~ 900 トン (22 日) と前回 (1 月 30 日 1,600 ~ 2,800 トン) と比べ少なくなったが、依然としてやや多い状態が続いている。(図 4)。

火山性地震は、1 月 30 日 (前期間) から 2 月上旬にかけて 1 日あたりの発生回数が 100 回以上の多い日が続く (最多は 2 日 163 回)、中旬以降も 1 日あたり 32 ~ 89 回と増減を繰り返しながらやや多い状態で経過した。増加した地震のほとんどは山頂火口直下のごく浅いところで発生したと推定される。火山性微動は時折発生し、期間中の発生回数が 9 回とやや多い状態が続いている (図 3)。

山体周辺の GPS 連続観測では、浅間山深部へのマグマの注入、蓄積を示すと考えられる水平距離の伸びは、2005 年 6 月以降認められていない。また、傾斜計による観測及び気象研究所と共同で行っている光波測距観測では、火山活動の高まりを示すような変化はなかった。

1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。

2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して



(注1) 2004年9月16日の地震回数は1406回、17日は624回。
 (注2) 2004年10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図3 浅間山 2004年8月～2006年2月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況
 : 中爆発、 : 小噴火以下、 : 火映（肉眼）、 : 火映（高感度カメラ）

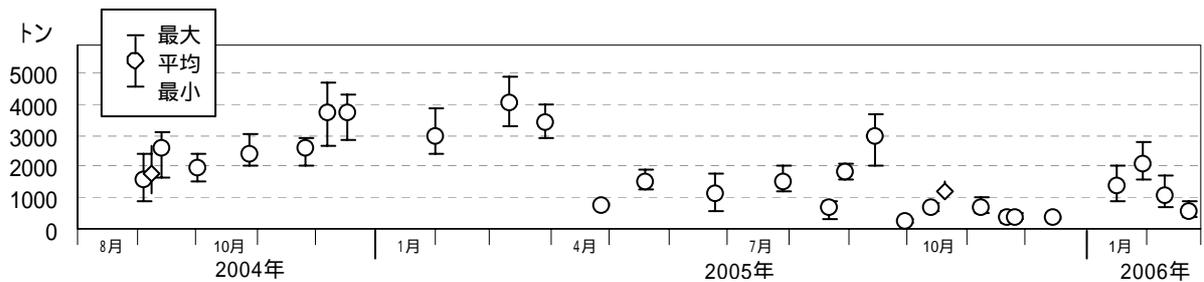


図4 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2004年8月～2006年2月）
 : 車載トバース、 : ヘリ搭載トバース

温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

新潟焼山 [静穏な状況]

地震活動や山頂部の噴気の状況に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

御嶽山 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

白山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、また、国土交通省金沢河川国道事務所の土砂災害監視用カメラ

では山頂部に噴気は認められず、火山活動は静穏に経過した。

富士山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

21～25日に地震が一時的にやや増加したが、噴煙、低周波地震や火山性微動は観測されず、火山活動は特段の変化なく静穏に経過した。

21日昼頃から、伊東市街の北東沖、深さ約7～10km付近を震源とする微小な地震が発生し始め、22日夜から23日午後にかけてやや増加した。最大地震は23日05時35分に発生したM（マグニチュード）2.2で、この地震を含め震度1以上

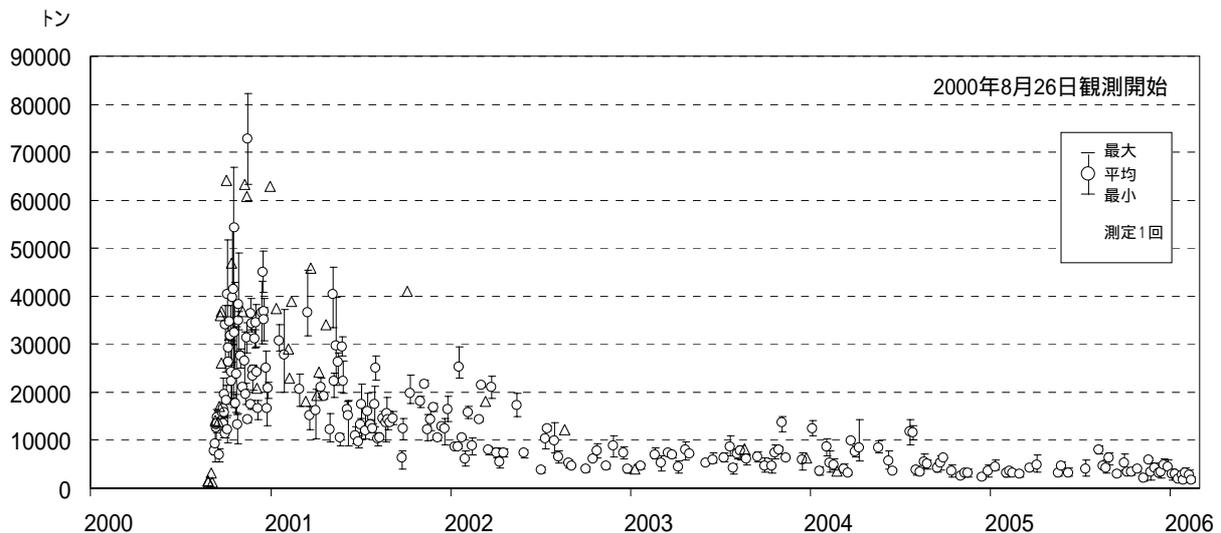


図5 三宅島 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2000年8月～2006年2月）
2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
観測は、陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力により実施。

を観測した地震はなかった。この活動に伴って、東伊豆町に設置している体積歪計ひずみや伊東市に設置されている防災科学技術研究所の傾斜計にわずかな変化がみられた。

また、25日から伊東市大崎の北、深さ5～8 km付近を震源とする地震が発生し始め、25日10時22分に発生したM2.8の地震により熱海市網代で震度2を観測した。

さらに、伊東市宇佐美付近、深さ2～5 kmを震源とする地震が28日06時から08時にかけて一時的にやや増加し、28日06時48分に発生したM2.7の地震により熱海市網代で震度2を観測した。

この付近では、同様の地震活動が過去にもしばしばみられているが、今回の活動はいずれも規模の小さなものであった。

伊豆大島 【静穏な状況（レベル1）】

地殻変動観測では長期的な山体の膨張傾向が継続しており、4～5日に地震が一時的にやや増加したが、噴煙、火山性微動等は観測されず、火山活動に特段の変化なく静穏に経過した。

4～5日に島の東部の深さ2～3 km付近を震源とする微小な地震がややまとまって発生した。最大地震は4日15時21分に発生したM1.4で、この地震も含め震度1以上を観測した地震はなかった。その他の観測データには特段の変化はな

かった。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っている。この付近で地震がまとまって発生したのは、2004年7月以来である。

三宅島 【やや活発な状況】

17日にごく小規模な噴火が発生した。多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

17日19時頃から24時頃にかけて火山性地震が増加し、20時05分から23時34分にかけて、空振を伴う振幅のやや大きい低周波地震が4回観測された。このうち、22時38分及び23時34分の地震では、三宅村神着で震度1を観測した。地震発生時の噴煙の状況に特段の変化はなかった。18日朝に行った現地調査で、山頂火口の東～東南東側約3 km付近（坪田地区）の狭い範囲にごく微量の降灰が確認された。このことから、空振を伴う低周波地震が観測された時間帯にごく小規模な噴火が発生したものと推定される³⁾。噴火が観測されたのは2005年5月18日のごく小規模な噴火以来である。

火山性地震は2日からやや多い状態が続き、2～16日には1日あたり概ね20～80回で推移した。噴火が発生したと推定される17日には150回に達したが、18日以降は少ない状態で経過した。震源はほとんどが山頂火口直下に分布し、前期間までと比べて特段の変化はなかった。火山性微動は観測されなかった。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上 200～300m で推移した（最高は 18 日の 1,000m）。

8 日及び 13 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,300～3,700 トンと依然として多い状態が続いている（図 5）。また、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

2 日に海上自衛隊の協力を得て上空から行った観測では、火口内温度の最高は約 130℃（赤外熱映像装置²⁾による）依然として高温状態が続いている。火口内の地形等に特段の変化はなかった。地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

GPS による地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

3) 三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した際に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

八丈島 【静穏な状況】

期間中、八丈島付近を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

福德岡ノ場 【やや活発な状況】

23 日に海上保安庁が上空から行った観測によると、福德岡ノ場付近に火山活動によると考えられる変色水が確認された。変色水は薄い緑色で、福德岡ノ場を中心とした半径約 300m の範囲内に確認された。変色水の南端付近には東西方向に筋状に伸びる幅約 10m、長さ約 300m の白色の浮遊物らしきものも確認された。

なお、17 日に海上自衛隊が上空から行った観測では、同海域に変色水は確認されなかった。

九重山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

阿蘇山 【静穏な状況（レベル 1）】

中岳第一火口では、湯だまり⁴⁾の状況に特段の変化はなく、熱活動は低調な状態が続いている。気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力連続観測でも火山活動によるとみられる変化はなかった。

23 日 06 時 20 分に阿蘇山付近を震源とする M 1.5 の地震が発生し、南阿蘇村中松（阿蘇山測候所）で震度 1 を観測したが、火山活動に特段の変化はなかった。

火山性連続微動の振幅は期間を通して小さい状態で経過し、孤立型微動及び火山性地震の発生状況、噴煙の状況には特段の変化はなく、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

4) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃ の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られている。

雲仙岳 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、静穏に経過した。

霧島山(新燃岳)【やや活発な状況(レベル 2)】

2 月 1 日に静穏な状況(レベル 1)から引き上げ】

2 月 1 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測され、レベルを 1 から 2 に引き上げた。

2 月 1 日 07 時 44 分に継続時間 4 分の振幅のやや大きな火山性微動が観測された。微動の発生に伴って、火口の北東約 1 km に設置している気象研究所の傾斜計に、わずかな傾斜変化が観測された。監視カメラ（火口の南約 7 km に設置）による観測では、火口付近の状況は天候不良のため不明であった。火山活動はやや活発な状態になっていると判断し、同日レベルを 1 から 2 に引き上げた。新燃岳付近で火山性微動が観測されたのは 2002 年 10 月以来である（図 6）。

翌 2 日に行った調査観測では、火口付近に降灰等は認められず、火口内及び火口周辺の噴気や温

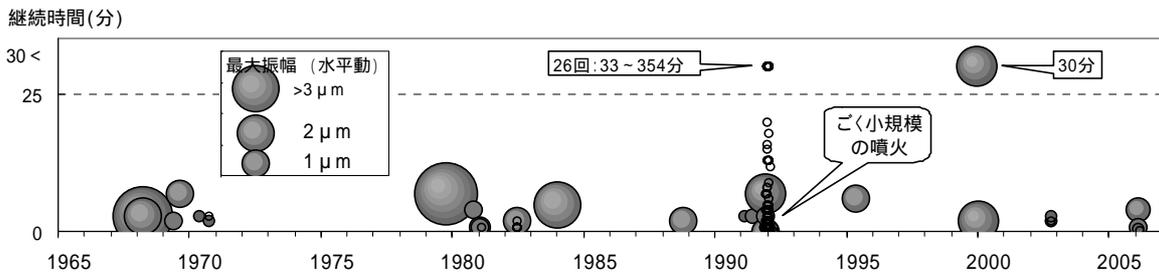


図 6 霧島山（新燃岳） 火山性微動の発生状況（1965 年 1 月～2006 年 2 月）
霧島山 A 点（火口の南西約 1.7km に設置）の変位記録による、連続微動を除く。

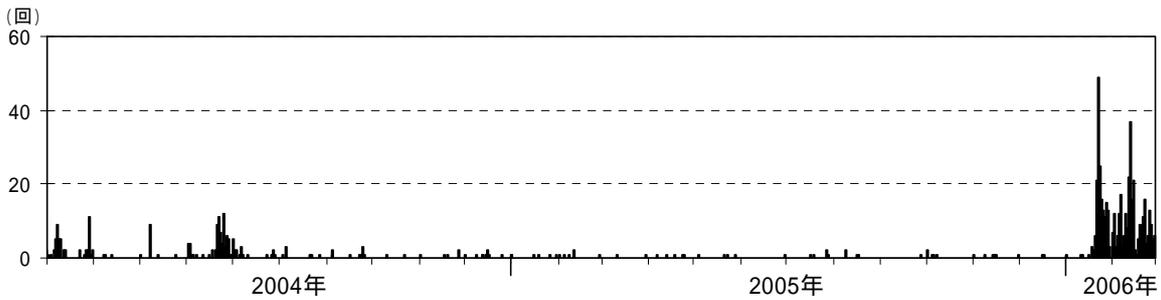


図 7 霧島山（新燃岳） 火山性地震の日別発生回数（2004 年 3 月～2006 年 2 月）

度の状況も前回（1 月 26 日）と比べ特段の変化はなかった。

火山性微動は、その後も、継続時間 1 分未満で振幅の小さいものが期間中に 6 回観測された。

火山性地震は、発生回数が時折 20 回を超える日があるなどやや多い状態で経過した（図 7）。震源は新燃岳火口直下の浅いところと推定される。

期間中、監視カメラによる観測では火口縁を超える噴気は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

霧島山(御鉢)[やや活発な状況(レベル 2)]

火口内の噴気活動は消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁を超える噴気が時々観測された。噴気の最高は 28 日に観測された火口縁上 200m であった。

15 日 17 時 01 分に振幅のやや大きな火山性微動が観測された。継続時間は 1 分未満と短いものであった。監視カメラ（火口の南西約 5 km に設置）による観測では、微動発生時の噴気の様子は天候不良のため不明であった。その他の観測データには特段の変化はみられなかった。御鉢付近で

振幅のやや大きな火山性微動が観測されたのは 2004 年 11 月以来である。

火山性微動は、この他、振幅の小さなものが時々観測され、月回数は 10 回とやや多い状態であった。

火山性地震は少ない状態が続いている。GPS 及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル 2)]

期間中、爆発的噴火が 3 回観測されたが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状態が続いている。

6 日、18 日及び 28 日に爆発的噴火が各 1 回観測された。噴火に伴う噴煙の最高は 18 日の爆発的噴火による火口縁上 900m(灰白色)であった。

この他にごく小規模な噴火も観測されたが、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で降灰は観測されなかった。

火山性地震は長期的には少ない状態が続いている。火山性微動も少ない状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、連続観測で、長期的な東西方向のわずかな伸びの傾向が続いている。20～23 日に行った繰り返し観測では、2005

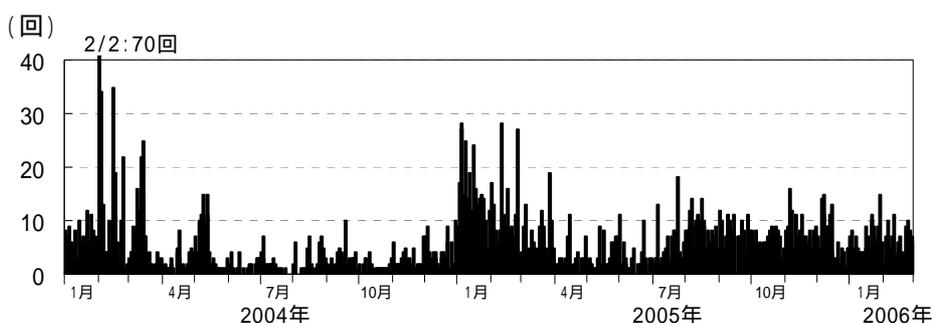


図 8 口永良部島 火山性地震の日別発生回数（2004 年 1 月～2006 年 2 月）
2005 年 12 月 15～28 日は京都大学のデータによる。

年 8 月からわずかな伸びの変化がみられた。

薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル 2）】

噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上 200m で推移した（最高は 600m）。

22 日及び 25 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測されたが、その他の観測データに特段の変化はなかった。

火山性地震の発生状況には特段の変化はなかった。

口永良部島 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 160 回（前期間 176 回）であった（図 8）。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は少ない状態で経過した。

監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、噴気は観測されなかった。

8～15 日に行った調査観測では、GPS 及び光波測距儀による地殻変動繰り返し観測で、2005 年 9 月までは新岳火口を中心に膨張傾向がみられたが、今回の観測ではその傾向が停止したようにみられる。また、地磁気全磁力繰り返し観測では、

2005 年 9 月まで新岳火口周辺の温度上昇を示唆する傾向がみられていたが、今回の観測ではその傾向が停止したようにみられる。

諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル 3）】

6～9 日及び 23 日に小規模な爆発的噴火が多発した。

2 月 1 日、6～10 日、13 日、15～18 日及び 22～24 日に噴火が観測された。特に、6～9 日及び 23 日には小規模な爆発的噴火が多発し、6～9 日に 187 回、23 日には 41 回観測された（図 9）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、23 日に切石港（御岳の南約 3.5km）で、24 日には集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰があった。7～9 日には集落で空振があった（7 日の空振はふすまがガタガタ揺れる程度）。また、23 日には集落で鳴動⁵⁾が聞こえた。

監視カメラ（御岳の北北東約 25km の中之島に設置）による観測及び同出張所からの報告では、噴火による噴煙の最高は火口縁上 1,000m であった。

火山性微動は、噴火活動の活発化に伴い、2 月 1 日、6～10 日、15～17 日及び 22～25 日に振幅のやや大きなものが断続的に観測された。

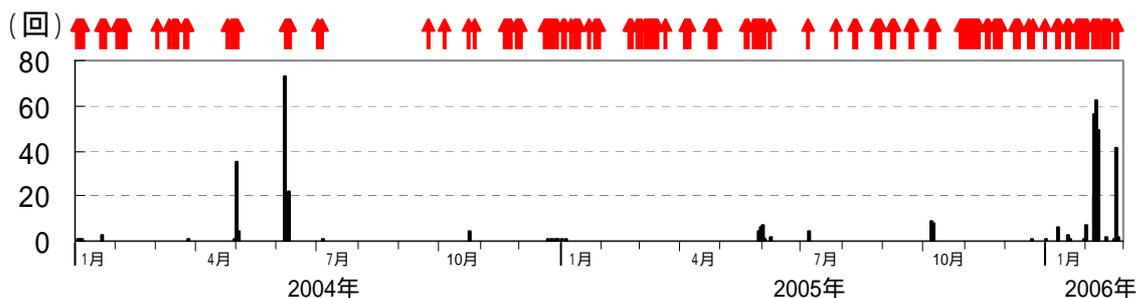


図 9 諏訪之瀬島 爆発的噴火の日別発生回数及び噴火の発生状況
（2004 年 1 月～2006 年 2 月） は噴火発生日

火山性地震も、噴火活動の活発化に伴い、6～10日、15～17日及び23～24日に増加し、23日には296回と多発した。

5) 火山活動に伴って聞こえる音のことで、「ゴー」という低い音で聞こえることが多く、噴火や活発な噴煙活動などが原因と考えられている。地震動に伴う音響は一般に地鳴りと呼ばれているが、火山周辺ではこれも鳴動と呼ばれることがある。爆発的噴火に伴って聞こ

える爆発音は鳴動と区別される。

硫黄鳥島 【静穏な状況】

18日に海上自衛隊が上空から行った観測によると、噴気活動に特段の変化はなかった。気象研究所及び東京大学地震研究所が共同で行っている地震観測においても、期間中の地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

資料1 2006年2月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第1号	18日 16:05	18日00時以降、火山性地震が増加。
	火山観測情報第2号	19日 15:10	火山性地震の多い状態継続。19日に行った上空からの観測結果。
浅間山	火山観測情報第5号	3日 16:00	1月27日～2月3日15時の活動状況。30日の火山ガス観測結果。レベルは2。
	火山観測情報第6号	10日 16:00	2月3日～10日15時の活動状況。10日の火山ガス観測結果及び上空からの観測結果。レベルは2。
	火山観測情報第7号	17日 16:00	2月10日～17日15時の活動状況。レベルは2。
	火山観測情報第8号	24日 16:00	2月17日～24日15時の活動状況。22日の火山ガス観測結果。レベルは2。
三宅島	火山観測情報第32～59号 (1日1回発表)	1日～28日 16:30	前日16時～当日16時の活動状況及び上空の風の予想。
霧島山	火山観測情報第1号	1日 11:50	新燃岳付近で火山性微動が発生、わずかな傾斜変化を観測。新燃岳のレベルを1から2に引き上げた。御鉢のレベルは2。
	火山観測情報第2号	2日 13:55	やや活発な火山活動が継続。2日に行った調査観測結果。新燃岳のレベルは2。御鉢のレベルも2。
	火山観測情報第3号	6日 14:00	2日～6日13時の火山性地震及び火山性微動の状況。レベルは新燃岳、御鉢共に2。
	火山観測情報第4号	13日 15:00	2月6日～13日14時の新燃岳の火山性地震及び火山性微動の状況。レベルは新燃岳、御鉢共に2。
	火山観測情報第5号	20日 15:10	新燃岳の火山性地震及び微動の発生状況。御鉢で15日に振幅のやや大きな火山性微動が発生。レベルは新燃岳、御鉢共に2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第1号	7日 11:00	6日から爆発的噴火が多発している。レベルは3。
	火山観測情報第2号	10日 15:30	爆発的噴火は10日に入り、少なくなっている。レベルは3。
	火山観測情報第3号	23日 13:40	23日10時頃から爆発的噴火が多発。レベルは3。
	火山観測情報第4号	27日 11:30	爆発的噴火の発生は少なくなった。レベルは3。

資料 2 過去 1 年間の火山活動の状況

火 山 名		平成17年 (2005年)												平成18年	
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
雌阿寒岳	活動														
十勝岳	活動														
樽前山	活動														
吾妻山	活動														
	レベル														
草津白根山	活動														
	レベル														
浅間山	活動														
	レベル														
伊豆大島	活動														
	レベル														
三宅島	活動														
福德岡ノ場	活動														
九重山	活動														
	レベル														
阿蘇山	活動														
	レベル														
雲仙岳	活動														
	レベル														
霧島山（新燃岳）	活動														
	レベル														
霧島山（御鉢）	活動														
	レベル														
桜島	活動														
	レベル														
薩摩硫黄島	活動														
	レベル														
口永良部島	活動														
	レベル														
諏訪之瀬島	活動														
	レベル														

活動状況（活動）

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- ：小規模な噴火が発生かその可能性
- ：やや活発な火山活動
（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）
- ：静穏な火山活動

資料 3 第 103 回火山噴火予知連絡会コメント

平成 18 年 2 月 28 日、第 103 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

第 103 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

浅間山では、火山活動はやや活発な状況が続いており、今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

三宅島では、2 月 17 日にごく小規模な噴火が発生しましたが、火山活動に全体として大きな変化はなく、やや活発な状況が継続しています。二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。

阿蘇山では、火山活動は静穏な状況となっておりますが、火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雌阿寒岳では、2 月に地震増加がみられており、火山活動はやや活発な状況となっております。

霧島山では、新燃岳で 1 月下旬から 2 月上旬に地震増加や火山性微動が観測され、火山活動はやや活発な状況となっております。御鉢では、火山活動のやや活発な状況が続いています。

前回（2005 年 11 月 2 日）火山噴火予知連絡会以降のデータを検討した結果、現在までの火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

雌阿寒岳 [やや活発な状況]

- ・ 2000 年以降、ポンマチネシリ 96 - 1 火口の噴煙高度や火口温度は低下傾向にありました。
- ・ 今年 2 月 18 ~ 19 日に火山性地震が多発し、その後もやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状況となっております。火口近

傍では注意が必要です。

十勝岳 [やや活発な状況]

- ・ 62 - 2 火口は噴煙活動が活発で、火口内は高温の状況が続いていると推定されます。火山活動はやや活発な状況で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

樽前山 [やや活発な状況]

- ・ 噴煙の状況に変化はみられていないことから、A 火口および B 噴気孔群では高温が続いていると推定され、火山活動はやや活発な状況で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

倶多楽 [静穏な状況]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

有珠山 [静穏な状況]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

北海道駒ヶ岳 [静穏な状況]

- ・ わずかな山体膨張が引き続き観測されています。
- ・ 山頂火口では緩やかな温度上昇やわずかな膨張傾向が認められていますが、噴気活動や地震活動に変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。

恵山 [静穏な状況]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

2. 東北地方

岩手山 [静穏な状況]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

秋田駒ヶ岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

吾妻山 [静穏な状況（火山活動度レベル 1）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

安達太良山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

磐梯山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

那須岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

草津白根山 [静穏な状況（火山活動度レベル 1）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

浅間山 [やや活発な状況（火山活動度レベル 2）]

- ・一昨年 12 月以降、噴火は発生しませんでした。
- ・火山性地震および火山性微動は増減を繰り返しながら次第に減少する傾向を示していましたが、火山性地震は今年 1 月中旬から増加傾向となり、1 月下旬～2 月上旬には一時的に多い状況となりました。
- ・二酸化硫黄の放出量は昨年 11 月以降減少傾向を示していましたが、今年 1 月から 2 月にかけて一時的にやや多い状況となりました。
- ・また、昨年 11 月を最後に観測されていなかった微弱な火映現象が今年 1 月末から 2 月上旬にかけて再び観測されています。

- ・しかし、深部へのマグマ注入によると考えられる山体の膨張は昨年 6 月頃から次第に鈍化し、昨年 10 月以降収縮に転じています。
- ・浅間山の火山活動はやや活発な状況が続いており、今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。火口周辺では引き続き注意する必要があります。

新潟焼山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

焼岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

御嶽山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

白山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

富士山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

- ・今年 1 月と 2 月に一時的な地震増加とそれに伴うわずかな地殻変動がみられました。同様の活動はこれまでも見られ、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しています。

伊豆大島 [静穏な状況（火山活動度レベル 1）]

- ・長期的なマグマの注入によると考えられる島全体の膨張傾向は継続しています。カルデラ直下のほか、西方沖及び島の東部では一時的な地震増加が時々みられていますが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しています。

す。

三宅島 [やや活発な状況]

- ・山頂火口からの噴煙活動は活発で、二酸化硫黄放出量は1日あたり2千～5千トンで、依然として多量の火山ガス放出が継続しています。
- ・今年2月17日にごく小規模な噴火が発生しましたが、地殻変動や地震活動などにこれまでの傾向と比べて特に大きな変化はみられていません。
- ・三宅島では、今後も小規模な噴火が時々発生する可能性はありますが、火山活動には全体として大きな変化はなく、やや活発な状況が継続しています。また、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。
- ・今後も局所的に二酸化硫黄濃度が高くなる可能性がありますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

八丈島 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

硫黄島 [静穏な状況]

- ・島の北部を中心とする沈降は継続しています。島内の噴気や周辺海域の変色水がしばしば認められていますが、火山性地震は比較的少ない状況で、火山活動は静穏に経過しています。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

- ・変色水が度々観測されるなど、火山活動はやや活発な状況で経過しています。

4. 九州地方・南西諸島

九重山 [静穏な状況（火山活動度レベル1）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

阿蘇山 [静穏な状況（火山活動度レベル1）]

2006年1月20日にやや活発（レベル2）から引き下げ]

- ・昨年4月以降、噴火は発生していません。また、湯だまり量の増加した昨年9月以降は小規模な土砂噴出、火口底の赤熱現象も観測されていません。
- ・湯だまりの表面温度は70前後の高い状況でしたが、昨年11月初め以降は60前後のやや低い状況で経過しています。
- ・火山性連続微動の振幅は、昨年12月下旬以降小さい状況が続いています。
- ・阿蘇山の火山活動は静穏な状況となっておりますが、火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳 [静穏な状況（火山活動度レベル1）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

霧島山

新燃岳 [やや活発な状況（火山活動度レベル2） 2006年2月1日に静穏（レベル1）から引き上げ]

- ・1月下旬から2月上旬に微小な火山性地震が増加しました。
- ・2月1日に継続時間4分の振幅のやや大きな火山性微動が発生し、その後も振幅の小さい火山性微動が5回観測されました。
- ・新燃岳では火山活動がやや活発な状況となっておりますので、火口付近では注意が必要です。

御鉢 [やや活発な状況（火山活動度レベル2）]

- ・2月15日に継続時間1分未満の振幅のやや大きい火山性微動が観測されたほか、火口縁を超える噴気も時々観測されるなど、火山活動はやや活発な状況で経過しています。
- ・火口内及び南側火口縁では引き続き注意が必要です。

桜島 [比較的静穏な噴火活動（火山活動度レベル2）]

- ・南岳では時折噴火が発生しましたが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状況で経過しています。
- ・火山性地震及び火山性微動は少ない状況で経過していましたが、1月下旬に微小な火山性地震が増加しました。
- ・GPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されています。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（火山活動度レベル2）]

- ・噴煙活動がやや活発で、火山性地震がやや多く、火山活動はやや活発な状況で経過しています。

口永良部島 [やや活発な状況（火山活動度レベル2）]

- ・火山性地震はやや多く、火山活動はやや活発な状況で経過しています。

諏訪之瀬島 [活発な状況（火山活動度レベル3）]

- ・噴火は頻繁に発生しており、火山活動は引き続き活発な状況で経過しています。特に2月6日から9日にかけて噴火活動が活発になり、187回の爆発的噴火を観測しました。
- ・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落で時折降灰を確認しました。

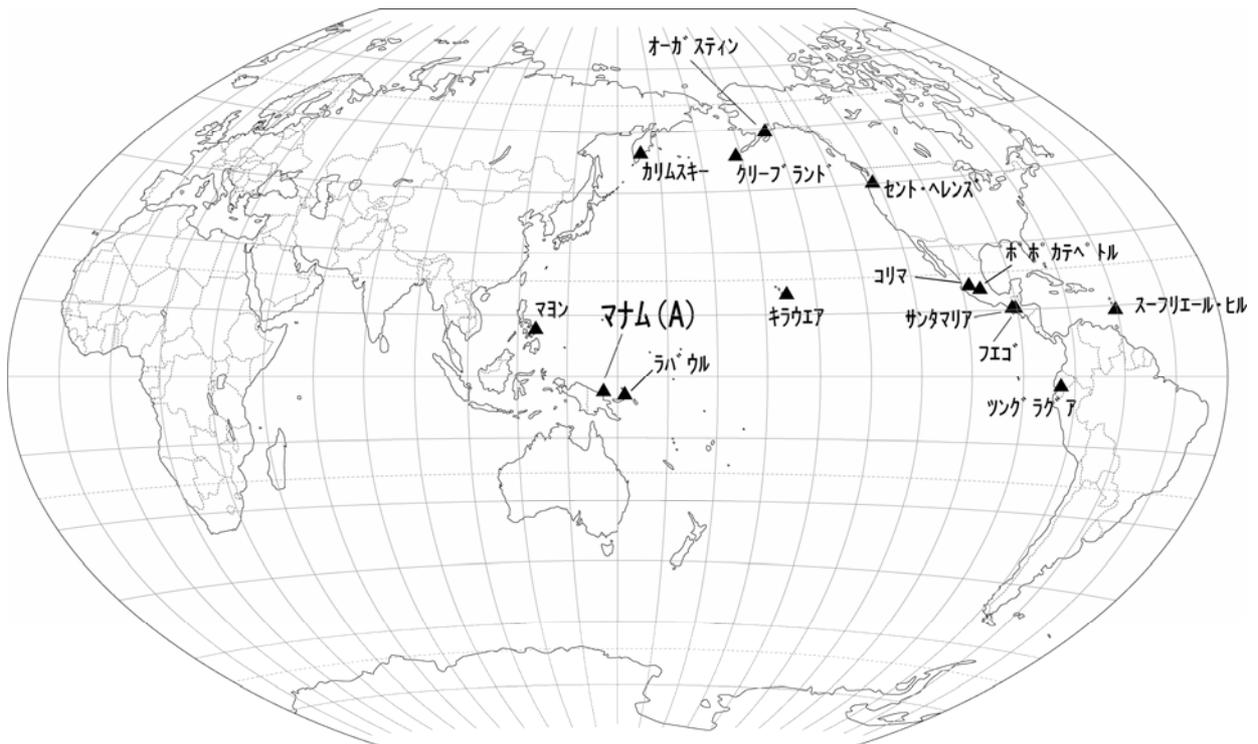
世界の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）2 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

マナム火山（パプアニューギニア）(図中 A)

27 日 17 時 30 分頃から規模の大きな噴火活動が始まり、オーストラリアのダーウィン VAAC（航空路火山灰情報センター）によると、衛星からの観測で、噴煙が高さ約 19km まで上がり、成層圏に達したと推定された。ラバウル火山観測所によると、噴火の最盛期は 28 日 00 時 30 分頃まで続いた。放出される火山弾の高さは最盛期には 700～800m まで達し、溶岩流が南西側の谷を流下した。島の東部では大量の降灰があった（マナム火山はニューギニア島の北東沖にある火山島）。28 日に行われた現地調査によると、溶岩流が南西側の谷を海拔 600m 付近まで流下し（火山の高さは海拔 1,807m）、火砕流が同じ谷を海拔 500m 付近まで流下していた。島の東部に積もった火山灰は最も厚い所で 7～8 cm に達した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



平成 18 年 2 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）